日刊建設工業新聞
2002年2月5日
1面

組合出資でリスク評価会社

不動産分野と連携し新市場

地盤環境技術研究センター

全国地質調査業協会連合会（森研二会長）の会員60社で設立した協同組合地盤環境技術研究センターは、不動産鑑定評価会社との共同出資で不動産リスク評価事業開拓に向けた新会社「アースアプレイザル」を今月末にも設立、不動産に関連する地盤環境評価のビジネスモデル構築に乗り出す。今回の新会社設立では、事業協同組合による共同出資会社への出資の是非が問題となるが、この点について国土交通省は、中小建設業が新市場を開拓するうえでの新たな取り組みと評価。中小企業等協同組合法を踏まえて一定の要件を満たしていれば「行い得るもの」との見解を示している。

協同組合地盤環境技術研究センターは、土壌・地下水汚染の新市場開拓に向けて、国土交通省の認可を受けて00年10月に設立。01年2月には、中小企業経営革新計画が認められ、国の補助金を受けて▽土壌・地下水サンプリング機器の開発▽土壌・地下水汚染調査機器の除染ツールの開発▽ガソリンスタンド（油汚染）やクリーニング店（VOC）に特化した浄化装置の開発―を進めている。

今回の不動産評価関連企業との連携は、近年、不動産取引における土壌・地下水汚染のトラブルが発生したり、国土審議会において不動産鑑定基準に土壌汚染など地中の評価が必要とされる方向にあることに対応して、共同で新市場を開拓していくのが目的。地盤環境技術を有する不動産評価という新たなサービスを展開していく。

新会社の資本金は1000万円で、組合側と不動産評価関連企業グループが50％ずつ出資する。不動産評価側は、「不動産評価投資コンソーシアム」（弁護士事務所、不動産鑑定会社、会計事務所で構成）の主幹であるケイ・アイ不動産鑑定が中心となって出資する予定。新会社では、汚染可能性不動産検索データベースや不動産評価計算システムなどを構築し、顧客に対する窓口相談や調査・鑑定評価を行う。

51-020205